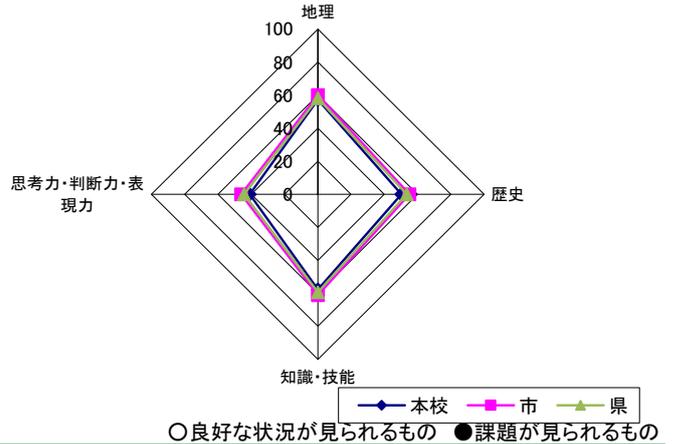


# 宇都宮市立城山中学校 第2学年【社会】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理	57.3	60.1	58.1
	歴史	50.3	55.1	53.5
観点	知識・技能	57.7	61.1	59.3
	思考力・判断力・表現力	40.9	46.0	44.3



## ★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理	<p>○垂寒帯気候の風景と雨温図の組み合わせの正しいものを選ぶ問題について、県の正答率を11.5ポイント上回っている。また、日本の領域にある島について述べた文として正しいものを選ぶ問題については、県の正答率を6.4ポイント上回っていて、気候の特徴や日本の領域をめぐる問題について理解している。</p> <p>●排他的経済水域の範囲と沿岸国の権限を述べた文として正しいものを選ぶ問題について、県の正答率を8.9ポイント下回り、日本の領域と関連付けて理解させる必要がある。</p> <p>●資料から、オーストラリアへの移民の推移の内容を読み取る問題について、県の正答率を7.6ポイント下回っていることから、資料をもとに考察する力を付けていく必要がある。</p>	<p>・世界と日本の地域構成の学習においては、地図帳や地球儀を活用し、地図に対する興味・関心を高めるとともに、写真なども活用して様々な視点から地理的事象を読み取る技能の習得を図るような授業を行う。</p> <p>・世界のさまざまな地域の学習においては、デジタル地球儀などを活用して衛星画像や地形、写真情報などから視覚的に地理情報を読み取り、知識の定着を図る。□</p> <p>・日本の領域や世界の国々の特色については歴史的背景とともに理解させるような授業を行う。□</p>
歴史	<p>○藤原頼通が建てた建築物について理解しているかどうかをみる問題について、県の正答率を7.3ポイント上回っている。</p> <p>●鎌倉幕府の政治のしくみについて理解しているかどうかをみる問題については、県の正答率を14.9ポイント下回っている。また、元寇が鎌倉幕府と御家人の関係に与えた影響について、資料をもとに考察し、表現しているかどうかをみる問題についても、県の正答率を6.6ポイント下回っていることからこの頃の日本の様子を考察する力が足りていない。</p> <p>●旧石器時代の人々の生活の特色について理解しているかどうかをみる問題については、県の正答率を12.3ポイント下回っている。基本の知識が定着していない。</p>	<p>・古代までの日本の学習においては、中国を中心として東アジアと世界との交流の中で日本の社会がどのように形成されてきたのか、タブレットなどを活用するなどして様々な観点から理解させるような授業を行う。</p> <p>・中世の日本の学習においては、この頃の日本の様子を考察する力を身に付けさせるために、小学校での既習事項の重要用語を踏まえ、写真資料や文書資料などを活用し、歴史的事象の見方・考え方を働かせながら時代の特色を読み取らせる授業を行う。</p> <p>・基本的な知識の定着を図るために、ワークの基本問題の繰り返し学習に取り組ませる。□</p>